

那須東原開墾碑

碑文

中村孫兵衛君は埼玉県人なり性剛毅夙に荒蕪開墾の志を抱き常に人に語つて曰く国内の荒蕪を開きて沃土となすは版図を拡大すると其利相譲らず国家の福利決して鮮少なからざるなり而して経世済民の事亦之に待つもの多しと諸州を歴遊し風土を視察し野州那須野に至る喜んで曰く此沃地以て我志を就すへしと乃同郷吉田市十郎長谷川敬助稲村貫一郎吉田二郎吉田六郎等の諸氏に謀るに那須野の開墾牧畜造林の事を以てす皆奮つて之に賛す明治十三年栃木県令鍋島幹殿に上書して開墾地拝借の免許を受け且同年より同二十六年までに事業成功の上は無償給与の官約を得たり仍て同十四年十月那須東原開墾社を創立し移民数十戸を募集しその地域を区画して居住せしめたり地名は起業者の生地或は近傍の名邑に因み熊谷行田上中条北河原下奈良稲村四方寺之を総称して埼玉開墾と呼ぶ広袤凡一千町後隣地交換の事あり七百余町となる開墾準備全く成り衆奮励事に従へ努力十年企画する所略竣功し直ちに払下の許可を得たり時に明治二十三年四月なり而して開墾の方式たるや或は洋式馬耕を用ひ或は我邦古来の鋤起を用ひ爾來二十有四年中村君社長となり弟房五郎君之を補佐し然して社務を執掌し終始当局者となりたる者は大平定治君となす現に区長の任に在り抑開墾事業たるや百年轉軻収支相償わす林業の如き数十年の後に非されは其功期すへからず東原開墾亦然り故に同志意氣沮喪して往々去らんと欲す大平君亦縷々中村君に對し廢業の止むへからざるを以てす中村君之に処し自若として倦まず泰然として挫せず鋭意經營遂に今日あるを致す其苦衷想ふべきなり頃日大平君移民と謀り当社開墾の由来を記し後昆に伝へんと欲し文を余に囑す余亦東原開墾の実情を知る敢て辞せず乃梗概を記す
こと如此

大正三年三月
昭和七年十一月

鮎瀬善太郎撰
菊地慶吉書